

洪水ハザードマップを確認しましょう

令和元年台風19号で信濃川が観測史上最高水位を記録しました。
水位や流量が異常に増大すると、堤防が決壊（破堤）する危険性が高まります。

被害を最小限に抑えるため、普段から災害に備えましょう。



洪水ハザードマップとは

想定した量の降雨によって、洪水浸水が想定される範囲と水深、避難所の位置などを地図に示したものです。

【信濃川】

対象河川	想定する降雨規模	発生する確率
旭橋下流	48時間総雨量331mm	1000年に1度
旭橋上流	48時間総雨量362mm	

【新潟県管理河川】

対象河川	想定する降雨規模	発生する確率
須川	1時間雨量50mm	10年に1度
焼田川	1時間雨量62mm	30年に1度
表沢川	1時間雨量58.9mm	30年に1度
茶郷川	24時間雨量190.1mm	50年に1度
湯殿川	1時間雨量71.9mm	30年に1度

色が着いている場所はどこだろう



ハザードマップの見方

①自宅の位置、付近の避難所の位置を確認しましょう。

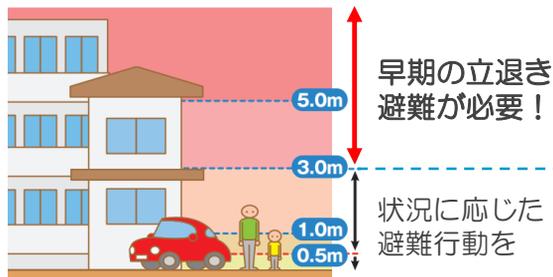
ハザードマップをお持ちで無い方は、小千谷市ホームページをご確認いただくか、危機管理課にお問い合わせください。

②浸水の深さを確認しましょう。

予想される浸水の範囲や深さが、段階ごとに色分けして示されています。赤色が濃いほど浸水の深さが深くなります。浸水深が3.0m以上となるおそれのある区域では、2階以上が浸水する危険性があります。ご自宅の浸水深を確認いただき、浸水深以上の高さに避難することができない場合は、早期の避難が必要です。

③避難経路は浸水する場所を避けて決めておきましょう。

ご自宅の想定浸水深を確認し、浸水しない高さへ避難できる場合は避難所などに移動するだけでなく、2階など屋内でより安全な場所へ移動する『垂直避難』も有効です。周囲の状況に応じた避難行動をお願いします。



【浸水深の目安】

- 5.0m以上.....3階床上浸水
- 3.0~5.0m未満...2階床上浸水
- 0.5~3.0m未満...1階床上浸水
- 0.5m未満.....1階床下浸水

💡 ~防災メモをとろう~

安全な避難先や避難経路、避難行動など決めた事はハザードマップに書き込んでみましょう

信濃川が増水すると、どのような浸水リスクがあるのかを調べましょう

「地点別浸水シミュレーション検索システム」<https://suiboumap.gsi.go.jp/>（通称：浸水ナビ）では、信濃川が破堤した場合、**どれくらいの時間で氾濫水が到達するか・どれくらいの時間浸水した状態が継続するか**などの浸水リスクをアニメーションで表示させることができます。自宅に水が到達する状況を確認し、もしもの際に慌てず安全に避難できるよう計画を立てましょう。



河川名「信濃川」で検索し、信濃川河川事務所を選択。自宅周辺に地図を拡大、移動させます。



想定破堤箇所●を選択して最大浸水領域を表示させます。（表示が×に変わります）



調べたい場所をクリック、その地点（）の浸水深が表示されます。イラストはをクリックすると変更できます。



アニメーションを再生させると、どのように浸水が広がるか視覚的に分かります。氾濫水が自宅に来るまでの時間を確認しましょう。

川の水位や雨量情報を調べるには

国土交通省「川の防災情報」<https://www.river.go.jp/>では、降雨・川の水位と危険性・川の予警報などをリアルタイムで配信し、いつでも、どこでも、避難に必要な情報を入手できます。観測情報を参考にして、自身の防災活動に役立てましょう。



水位で氾濫の危険を知る



映像で川の状況を知る



雨の状況を知る